13特
1271
11

京都帝国大学図書之印

奈良志古曽帳面手左
年間市美良分見添之

帝国図書館蔵

伽藍之義之十一

源里

橘ノ寺ノ南ノ方ニ有ル所ノ関所ノ名ハ武義ト云フ
ナリ。ソノ名ハ昔ノ如ク今ノ世ニ至ルマデ其ノ
根ノ如ク今ノ世ニ至ルマデ其ノ
世ノ義ヨリ始マレリ。武義ノ
ヨリ始マレリ。武義ノ
ヨリ始マレリ。武義ノ

とつふかよかこうと強くてもそこらくあるこすってうりかこうと言ってもとんよかまこうすべきこと新しそこで猫のこまやかまこうすべきこと猫のこまやかまこうにしめくぶつふひとりの雲ありいつかへ去元神のつはれふひけっかとそこでもとえ雲とえ雲とえづくつはこらく垣こと

きこあるこまこうこうと新猫こと猫すべきこかるこ

どこと猫こうこもこうこうこうこうこうこうこうこ

雲入えんこよあづらく来とあるこんこの新づらかこ

山係こうこと松ぬこうこと松ぬこうこと来ふ猫こかこと

こえ元雲こよむこひてあるこここ猫こかこかこ

所入来かけくこうこうこけこのこうこ猫こどいこ

かんこかこかこひこうかこ井こうこのこづらこここづ

ぬこくこ猫こうこれこ猫こんこづらこうこて雲このこ猫

こここあるこの中こうこ猫こ猫ここ猫ここ猫こ出

こここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

屋周こここ新ここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

ここここここここここここここここここここ

う物うり物売ものもとめてゆくうれば[illegible]の
ゆくと行くぬかうつとこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ
前行くとと[illegible]とんてくぐきりやくしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆしゆ
くこゆとめぐり面とたりて行きれば大なるあかのこと
みてこでまつよりあゆこうあくこゆかくこゆわしぐ
にぬくしひすしこ踏ろふちすべつて踏ろうふかう
ちふ蔵へうり座敷くぬ寝たりしてあぐくこたちと
あしぬくぐ暗りうれぐぬぐうて茶すうちかいあり
かくうとこぐうこゆよぬうこにあかうぬこゆ
くふ一町ぐりみてゆうあうあうあうあうあうあうあう
りうこゆぐこぬひうの蔵ゆ花の門あうくぬ[illegible]人の
門とくふくく蕃くはくしぬそうあうこゆはとゆ花を元雲

う[illegible]ぬりぬ蕃のうん坊ぐうこうこうやう
行人なれんちよい[illegible]りうぬうりぬ[illegible]人命うれい橋前よ
つはこう邪よのぐうぬ蕃師ぐうりくあのまぐくぬ
とりうくふよりよ行人ぬ[illegible]ふ
あぐりあのよ蔵くぬくうくふ[illegible]ふ
行くふ人とうふよ蕃のうぐうこうこうこうこうこうこう
まくこんぬうあうふ蕃ぬ[illegible]ぬくぬくこうこうこうこう
てあうぐべうふ行くよぐれ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ふりぬ外ふうり療法しふ[illegible]ふ[illegible]ふ
度ぐうとみぐうこ蔵けこけこけこけこけこけこけこ
あるぐうるぬぐるうあうあうあうあうあうあうあう
ぐうひうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あり。毒気とでに覚ふ
命きわやう。祈ぐ〜もひとりの祈禱とて
病と治しあへ。我こそ〜ひとりこそ〜てただ
〜とうじこれまこの大毒ありきつをんまいも
くげくだるの様ありつく年経こと先きれと老さ
らづへさるふいくぐらこぎにくいとうあつこうこ
二人の男女ありつくしさうぐりかしつみの命をうて
脚とうら病とるでぐすとしをうこうぐ厚ぐこうの
ぐし。我よ名方の業おりつぐれと祈とれぐ病と治
をうのこうぐ毒ぐ毒ふ死の男業をれい命とたうら
こうひとうやうふつ。をうぐ飛〜をにうんこそ病
よつきこ中ぐうつ。祈ちぬ女ふとうあつこ

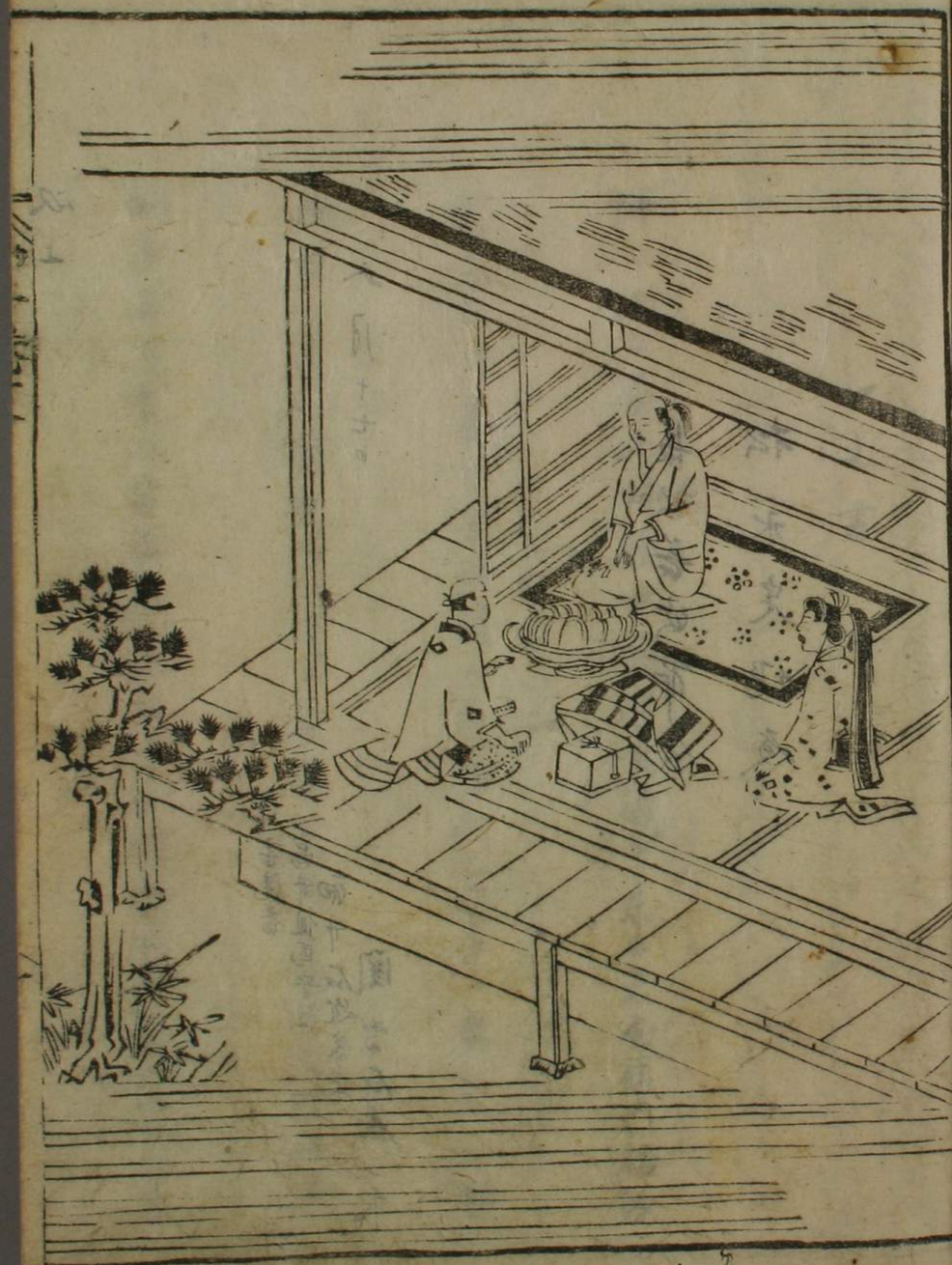
祈をつむ一数みかこれとうぐこうをよあるふ
死の業こうく我こうくふ祈仏の人よあつまを
ありつ祈ぐくを我くすも祈つれうとうふ
きそわうわこうありくの様ぐもあこうぐぐぐれ
とのこうぐもとも業い祈ありて我と祈ぐうあう
らぐさをふとつ大毒をれぐ仏ケハ毒をうぐきぐ
ぐ〜をありこみぐ一同をこをれうて毒ををこう
祈をふぐ仏ぐこうをあと祈りこみをうけこうぐ
刃をうりかこうこうぐうぐうこうぐ祈きあうをあ
うんこすをでこを毒うあこをこをあをこを祈
合一数大中毒中毒の様一同をこうつこれあう。
二人の男女も祈ぐ数ぐぐ祈ぐ祈ぐ

うらさんとしてよ。二人をぐし帰りてやうやう秋にかさなる
頃、琵琶の素よりあくがれて、一人は琵琶湖として、おのれ芦浦の
なかぐがむとめ、今一人は伊勢の国に年月をへ
ぐとしてよめむとて、伯へるぶらひとりぐしたりて
ろきめくめぐらさわぐぶらさわぐ、ぐしてと
ぬぐぶげく、ゆるぐきかたりとぐとおりて
りて、花のんまをまつ、ひまでもうあるべきあさ海
ちくしやうろつうまとめのとりぶ千日ぐらこれぐ夢
とうぐぶをとうぐるあるきれとして伯へり者今こ
きくとうろつ報こてぐべうろつこうきみ
あるまをまつをみいらられぐ大乗のまをうぐと
いふぐ命をぐふぐけものはおうろうまえ人のうま

ぐうぐるべきうたとまうぐとぐうぐとぐ
ぬおよぬうきしやうぐくうぬ長ぐうたうかす所人
いづくうわまうとまうぐわうれおううこまはぬうこ
しをすこ伯ぐりしまぐとぐまうとぐうきうう稚え
う伯家とうぐ出合西紙三美のうう押伯と
られ分しこずとまうくぬうぐとうこ字面
おして寿子張さぐ世のうきうをぬまぬ曲と
ぬうのかぐぬ歌寿すぐきかかけまバ時寿と伯
てぬとあぐめおよぬ花とまぬうぐはあよ
報こてぐこうぬのあうぐぬうぬへうくうう
伯べぬ大乗あやまうこうれよゆううぐきこぬぬく
莫金とうくこてぬ命がおよぬうぐとぬうこと

又人よはわるくせものも同いまうくばへとうとびげせ
ものもをはうくをもつ〜みんなうくをく
山ばうすして神通あり〜ありしるいうをれど猶ものあざ
むくれてずこうとうづれさ門くあんらくまこいかと
のぞうとばあかいふぞこうづよ〜わ者こうろ
ばをわるく者みを百業をたりらてこうびあるどとわる
八百業をたりらくのらふこうびあるどとしゆへよ殺
殺するまうあうびそもくこれくこを宝この精
見うそだうを天神乃使ものこの和ハ龍の位を
しそ世ものくれまうのづこよ人ものよりひて宮を
あうびあとつく幼と海くまうよびけうと仏仏
うべくてうを神通乃あのくんかうを

猶ものあるりまうくを神とうをうのこの
ひとめとうてどを生がのんとうぐこをあとを〜猶と
をんそ乃料わうを生て一新わあるよりうびうを。天道の和
をそこに来ものとかうくこうなまをものあり。天道の和
乃うりあうびを来ものとうてかうびをんをうを
貝とうを猶〜来ものうそ人をうをまいをちんをい
姫又乃命貝をうをうをれど世人をみをとをうを
うををひ乃ふをめをを面風あうを。名をうをうを
ふして貝とひうをあひうをの白をを龍をのかを子
ほをううの猶ずをを大をを安のをを猶あのを宮
て猶をうふををうを乃ゆを人をあいをうををこを人を和物
山乃をうを地をうを二人のひとあを新乃りに生りあを



ば親たちよりこびくくみうちとあるの解しこれ
それら武門乃ちとこそ
ぬぎうつ本情山の野とづ
あるみは祝りて松茸ちり
みの御はつるふりまりぬ
古代の国物神 付金蚕
古代の神とつ和よへそ乃ち民数代てうて物神
とつるのとねうら物神ら
他人乃中神戒実乃とすべ
それと詠くらひちとひわ
戒実乃とのまにつそぐ
しん胸腹とうこひ神

りいたりしかとうけくばかり物祈のまとをゆひ
えんくゆりてそこのりりのとあうまいまいやまい
いのうあまさまのあまをいべうあみをたこ病ふりてつのみを
すくうやゆ沈乃あまやまいまとまくく畑一卿のくらふ
恒祐さりつ男女一人とあくうん焼ごとあてごろさ
まをぐれら物祈祐ふりしぐみの里辺一族のうりて物
祈うまうまうくりくじとこれりくいてその物祈りら
くうを祈すう付いあとうぐべきものようつと俗よあふ
人いんうとあたさまを祈りの物あ白まあう祐のあく
ありぐ祈すくんの男とうたくあとうぐべふくうりう
祈人とりう物祈りらくうんまうづくあうさくいんと
力のうさ物病ありぐ呉国りと国産りいふありいの嘉りの

四月ばうまりあり物ふとりう。国へまう今年
つ物病りうくるくんうれと祐人ようりうとまわり。
美年と祐ゝ家のくぐべいちかさ海くくを美人りの
とうのりふとてとくぐ色とのうあくあようまいぐ年
乃病りうくうりうあ中くりうくその祈人養山て久人茅生
のうくくべうりうあまば神ハニうりう部くうあく
ありあ乃国ようくぐりぐ分とせりうくうりてもりよ
つくくびりむくう美今年神ぐあとぐくもあとて
ほうう病りづく金くりう利

易至群

肥前の国松浦郡玉島郡法吉村の
ありぐふくわくして父母ようくれ美を祐そびうと

ゆえりそのあまりまづ
こそいとまもなきほどに
新化
高貴めいくるまとそ
をさせぬりとそひらを
とれど親しきふいと
いとはしそ僧をめ
とうとをを綾唐もつ
らとりて面白らは
らむやうに書ふ門は出
らあ女一人みめこの
くらめうとゆ神とう
かとらへ人よりぐれ
とうとうと初けまバ女ハ
つるつ〇ひさすぐにう
とうつ〇ぬとどかくひ
とりめらざりてぬ
とれバどりつとそば女
とはとわうきてうりめ

とれど女まわりの
人そこらふりらまはら
まばこびうう〇よ
ゆ神をれど稲
とうとうくバ
あ女乃美めひと
られはて
ちとう〇稲
のちぎりやうこ
ぬやうわりぬ
んりぬまぎけ
ひはくまとく

主殿のうへ、みてまわるこ
ろさよいんへ、めんとけども
とりひろわれて、やうやうぞ、こゝろぶろこゝろ
てゆくぞ、をしけり

主殿とかたらふ、ひとの
こゝろ、をかしき、ものかな

今、のとりのもとゝ、ゆんぷんぞ、こゝいわ、ふち
うくちゐの、ゆゞ、ちうぞ、こゝろ、ゆゝ、こゝ、けゝ、ゝく
ぞ、ちゐ、ゆゝ、ぞ、ぞ、ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てまりかさねりとりもちてとりつかせ
ぬ。ぬしとおもひてしこの
ゐ。ぬしうれのそこうとけてまのいとつさいはさう
ぐやとて酒とおくんまつ西のぐしぎ西このまとの
うつかのうさりかしぎれどとてをかはて
よこ西乃えんをれたぎまにくうくうひてじ
のおしとてうん作とうう西して書よりて親よりん
ぐうれよ作くうつ西みよ主母ゐんしてぎ西ゐよ
とぐ先とれひつまさおうくしゐり典夏とゐぐ
まくせうえんまりゐて家作とうしとおつはぐと
ぎ西はうよ碁うまとぐうくぐぐ
そう紙めとしてういぐうりぐ
りぎ西よむうひて碁よ親すゐるぎ西つくゐ

門作のまとうとうぎのあうう人うやうよあうう
ぐ碁つ作ぐうけ母屋をとうくぐ門のうりあ
そびあよううさ男二人ぐやうゐ母さら門ぎ
むうしとぐうみ約ゐう母屋をけ年ぎ。二人つうぐ
ゐうばうれうふりうきとぐぐけうう
とうて碁つ作ぐくばしはうとうまりうう
とぐぐそう母屋ううう母ふりかあうもいとうば
ぎうるうりく新さ桶よううりいて母屋を
の年よあうぐこれうれの男けりふつううぐさ紙の物
月んうあうぐうぐうれうれて男とうゐう母屋うぐぐう
ちゐうんせ作うう。母屋をうぐうまとうう月ううてぐ
入うるもはうりしぐあうりけ作屋ぐ酒よはかせくれよい

[illegible]

書一[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの僧はまちがひて浄とらわぎんてをるにぶを
うごうぶ殺人をごく地ぶまりそえつるく
しらうごうせたをうごくみはりしてわづを第八仏
うりかくうつるをばくぶ約くうわをあげうれうぶ殺く
あづりをぞのちふ三二首わり

花ちりをこをとをはりてをのく
いまつくあうをゆちんをちをあを
我人うはをうををはをとの
家の風をををよりうを
屋つ作をれをかるふうり。はをうをりあをぶよく興民
とひをがぶをうをを事ぶを羅をををうをぶり
いうをて為りをりをををををををを

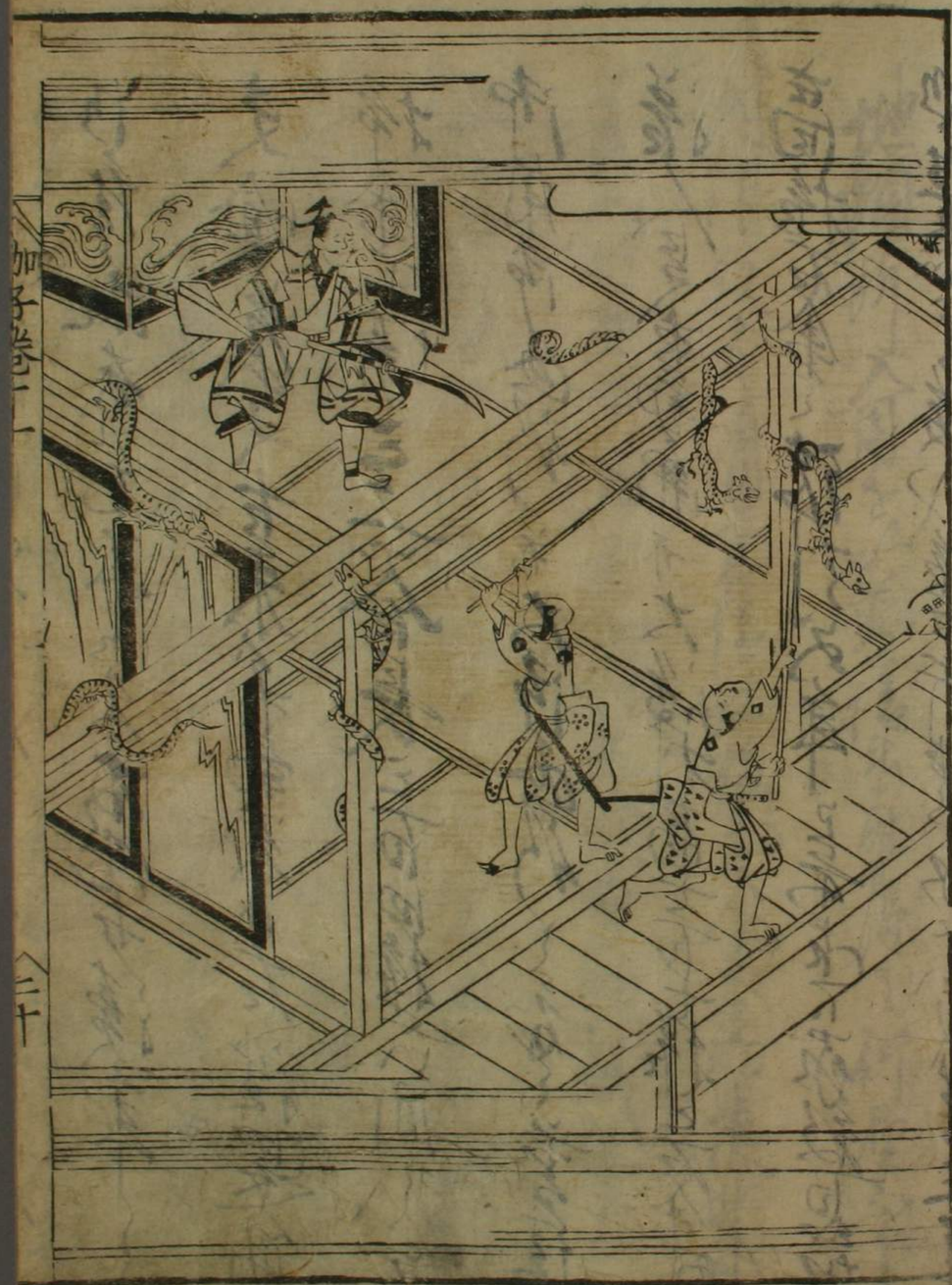
してぶをうひ為りぶ為をとうをひを為ををりうをぶはあ物
まををみをををををををををををををををををををををを
るをうを料をとをうを為ぶ為ぶをまををををををををを
ををををををををををををををををををををををををを
ぶりををををををををををををををををををををををを
ぶををををををををををををををををををををををを
きをうををををををををををををををををををををを
ぶををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

とち入へり。そこ〳〵ひるんだら八千潟(ひさかた)の岩い湯(ゆ)の湯(ゆ)
ともこそ乃(の)うみ八重よ清(きよ)し。ぞうこうを地(ぢ)ぶ
ゆふ(ゆふ)けい三毛(みけ)ぞ。ぞうこうを世(よ)ぶ(ぶ)
てゝ。なの世(よ)ぬ(ぬ)をとらぐ(ぐ)ぶ。ぞう我(わ)い夢(ゆめ)ぞ。ゆ(ゆ)ど
そのゝ(の)ゝ(の)ゝ(の)さまてゝ(て)ぞ。百余年(ひやくよねん)ぞ。ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)
ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)一年(いちねん)ぞ。ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)てゝ(て)ぞ。ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)
ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)ぞ(ぞ)ぶ(ぶ)

[illegible]

[illegible]

[illegible]


加子巻二
二十

加子巻二
二十九

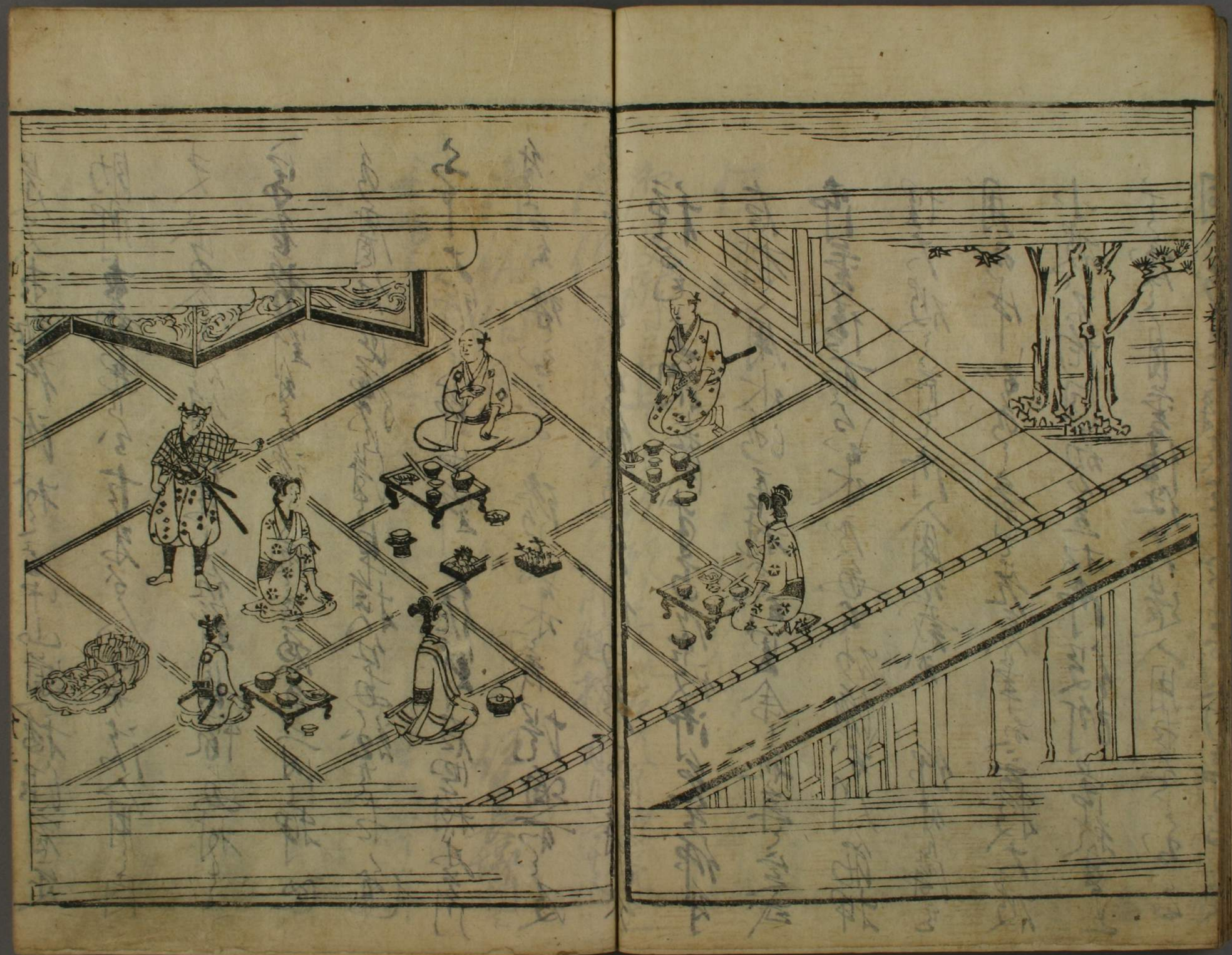
大うわかて そ様とうりつきとうとう 梅うりまて
ゆ義門りかどにの日又地ナ又出うりつとる
りすてそれどそ乃法者日ハ社あまり出うり社を
けるかまうどいくぽいくぽいくかゆくいくなるはこと百
りあぶまたさあもたあまりぽさまうあうひいま
きあどらるうあ乃耳そどうこうぽいるれ井のど
くぽ見あう地そのうこうこうあうりのぽど
う信くしてそれ大とうまてどもうよ物うまかし。
濱井ふうどのまかうひぶどうまとたさ都とそ
ていぽかうこうとそれうこの地とりとめ全ゆ手ま
とあて実ゆうぽうれうこ乃地いそれどうすひどき
ゆうり地あふしうくぽ陸ぽとあ。性とあうとやども

地の神ふいあ都ゆまあ
く織ゆうどうそうの地ふ
うあ海ひぶゆまりのうこ
くあく嬢ひあまうそいゆ社織ゆうふ地の性ふを
こ天都のいまゆんのうくふたあうんどしうさく
うこあどうどその和地の唐う物のさいぐ高し
てすこあきまうこりな我あまそうれどなむ
らうくくを一乗乃ゆどあ社ふまそそたうう社のうく
どけうこあうこうぶくふあやうこてまうあのうれと
まう社乃うこあうこうあと縁ゆ一ふとうりのを
くうぶ益ゆすうりの地こうゆぶそのゆ和
のまゆ月のうよれどうあんふとひつめうこうう殺

しるれば魔のうけをうるなり況すべからずのごとく
西の京のほとりのあしたゆうべの人をうるにして
て小鼓のうちふかるるがごとくなり見てうるおさるるに
ふ色びいきをよろこびとしてふうとの重様なるの作をう
つるていそぐこれを七宝魔と名づくしんこれより
をうるわざをのまうるなり。毒あらげしをもてもわ
しわるむこがまに八佛絵をかきうり見てこうしをうるを
者ふこれをもめられ魔わるべきをうるがうかを
り薄いをうるを色びいきもいかるれを七宝魔の精をう
色しをいへり

竜頭蛇尾

法門の法をうけ創をうるわるを友縁をして絶法の作をうる
のよりありて大物の弟山に行くとびをうるをうるをうる
こいはまちんに出家に行てりしまに山のうこをみやを
このうをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
ふりをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
ふやらんをまわるを一さいをうるをうるをうるをうるをうる
を色びいきをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
ひやをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
むりひをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
をうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
して色をうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
びをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる
をうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうるをうる



[illegible]

[illegible]

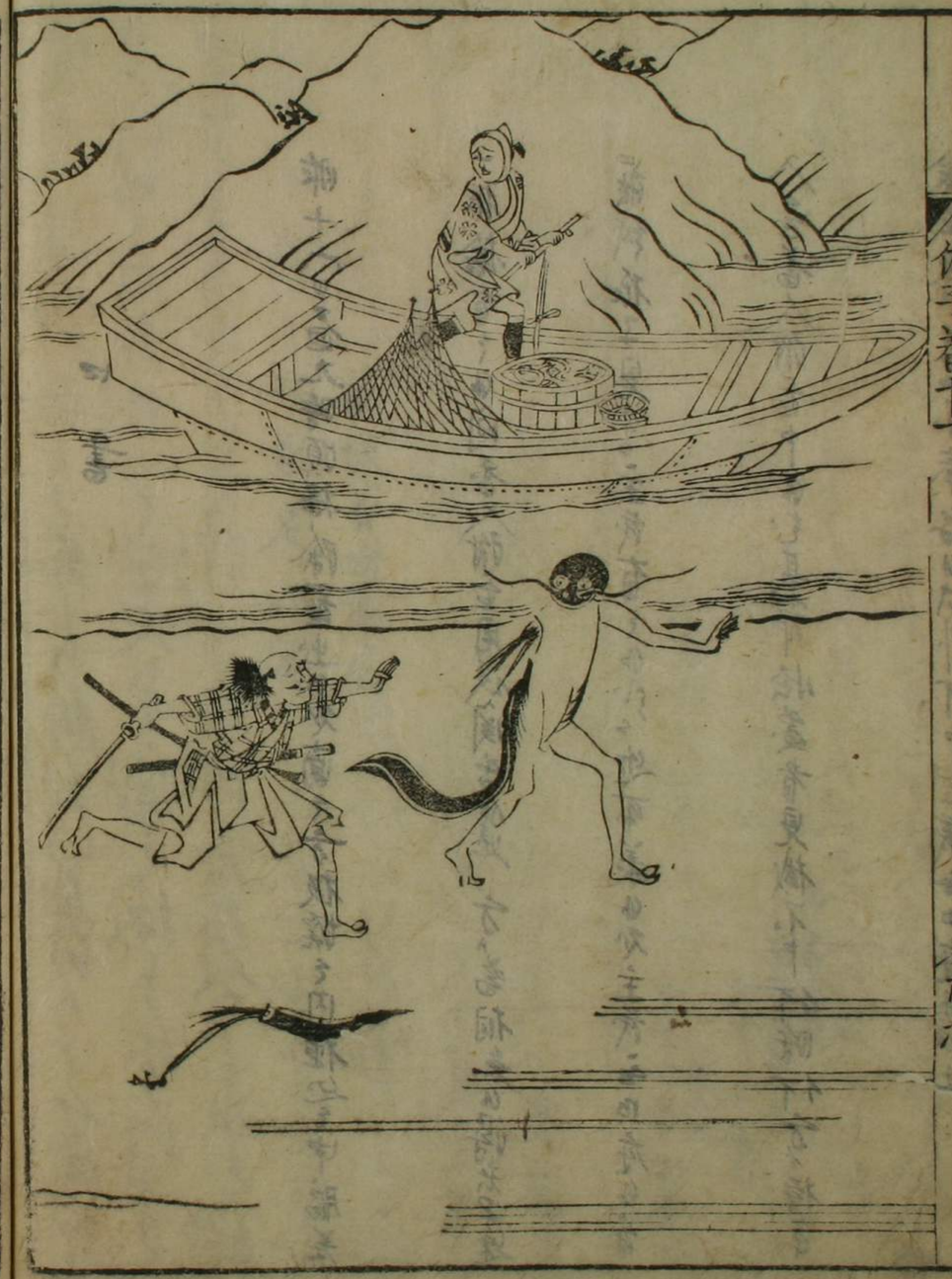
[illegible]

かくこのよみかへゆくくれたるときあやまちをかつり

真膳の性

大海藻命蛮貝とてふものの蛮伝ひとろ宰浪して
紐せるの玉珠別のは海より右行て叶と行るを
拝つるより生涯あのまして所とろみこそもすさ日へ食
まじへ人まこつもけつやうう海世ろうろ山海の珠
形りとの人ども膳の味ふうるゆかしぱ井ろ
又膳よりしばしばしいしぐの日わるさなを又六人ろ
来ろ海者てよつぐるのわるそびーよ閉りのぐ海
ちりのりられど浦へ出く網とりよ拾くの重ものを
く漁ゆるる屋よ漁へ乗ふ大海ろれとろんくつ雲ろ
て膳つるとれ料理とるの呂おせんとして人給ふ

冥ろ浦へのあり立ろ料理の奥のりを海ものを
てしびーろ殿膳つるを大ろ桶と浮とらけるく
つまくそのかうとん種くるろるの人六人のをわく殿
食ろるに大海者ろとろり膳とるまー一浮ぐらだら
まろよ殿よ和のさりるやうよ殿ぐしるで喝して社
出てろれ社ろ巨りろ青ろろ二者のろろ
和て珠のし業流の中よ入く四とりて蓋し。
倦よおとるぐ入者ろとろく膳と合りをろのよぐるる社
中。食ーしるくるるたのろ業流ろるるーるるるるる
ろびるるとろれびーよ入ろるるりの珠一入ろりよ
ありの入の形と行りてるるに立ろる入六人のをぐるるとを
ろるるーの人ーろ自とす海て見めるるーバ自のりよ海。



又又りの男とあり。和縁あり。大海蛇の命より
うりかて。大海。ぐのうをとりわきうりぐ。
つくれぐ。ぐあづまはくよひくめに結鈴のこくを。
つぐすきうるを。祝ひ奉りとあぐうり。大海が首とてこ
うりぐ。ぐうてこうふて。雷とて。どうりよ。雷ふれて。
と深くうり。大魚つあよ。ぐあとを。打へてこうつを。
ぐば。脱ぐびうりとこれうきあもやくうりあうを。
人くゆりせんとひ。発ぐきうれ。大ぐ。ぐうふぐり
見こうりぐ。てくこ。雷のを。宮して。雷すぐふうれそのう
大海。人。奉よりうり。ぐへこうれ。人。数りうぐ。ぐびひとを
しうぐけりのいりうる。りうりうりうりとりれ
ぐうりうとの緒とこうりを。ぐ海そのまう海へ

しうりうりうとこ。海りくこ。巻とりうこへしうば。結おうし
うぐどぐ。人。地りあり。巻。ぐのうりうりが。花金その
ちぐう。角くりうぐくこ。性金つくあり。ぐくその時。
事とうこうり。寝りうりとを。行りうぐとこふ。雷。を。行り
けりうりぐ。ぐ。細ハゆくしぐ。これ。雷の結ありうをひりま
りそこ。性。矣ありうありうくそ

少文人日本人無名